

寄稿

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へ打ち上げられたイモガイ類（腹足綱，前鰓亜綱，新腹足目）の貝殻目録

久保田 信*

List of *Conus* shells (Gastropoda, Prosobranchia, Neogastropoda) washed up on a “Kitahama” beach of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University in Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan

Shin Kubota *

* 〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

* Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama Town 459, Nishimuro, Wakayama Prefecture 649-2211, Japan

kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

和歌山県白浜町に所在する白浜半島の先端部に当たる番所崎付近（番所崎と京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”および“南浜”）は、外洋に面し、黒潮の影響を受ける磯と浜が交互に並んだ海岸で、複雑な環境に応じ多種多様の軟体動物が生息している。それらは死亡後に付近の海岸に漂着するものも多い。過去 20 年余りの期間中、軟体動物相、特に番所崎周辺海域に打ち上げられた貝殻について、筆者らは毎日の様に継続調査を実施している。この最初の報告は、2002 年 2 月以前の 5 年間になされた結果で、腹足綱では、3 亜綱 12 目 61 科 188 属 343 種 34 亜種 3 型を記録した（久保田・小山 2002 a, b）。その後、久保田 (2006) や平澤・久保田 (2013) により、腹足綱の追加種記録し、3 亜綱 12 目 62 科 192 属 366 種 41 亜種 3 型となった。この最新報告中の 5 種の北限更新種（平澤・久保田 2013）は、1985-2010 年の 25 年間に実施された番所崎の定点での定量調査 (Ogaki



図 1. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”をはじめとした番所崎の海岸へ過去 20 年間で打ち上げられたわずか 3 個のゴマフイモ（イモガイ科）の貝殻（左個体は 2017 年の打ち上げで、他の小形の 2 個体は同年の打ち上げ）

et al. 2011) などでは生体が確認されていない。

今回、イモガイ科に焦点を当て、1 属 12 亜属 23 種からなる下記の目録を作成した。この掲載順は、亜属名や亜種が大幅に変更された奥谷 (2017) らによる日本近海産種の図鑑に従った。その中で紀伊半島が本邦北限分布域と記載されている種には*を、その記載にはない北限記録には N を付した。

*ベニイタダキイモ *Conus (Floraconus) balteatus* G.B.Sowerby, 1833

ベニイモ *C. (Splinoconus) pauperculus* G. B. Sowerby, 1834

ハイイロミナシ *C. (Rizoconus) rattus* Hwass in Bruguière, 1792

*サラサミナシ *C. (R.) capitaneus* Linnaeus, 1758

*イタチイモ *C. (R.) mustelinus* Hwass in Bruguière, 1792

*カバミナシ *C. (R.) vexillum* Gmelin, 1791

*ヤナギシボリイモ *C. (R.) miles* Linnaeus, 1758

*ゴマフイモ *C. (Puncticulus) pulicarius* Hwass in Bruguière,

- 1792
 N メノウイモモドキ *C. (Pionoconus) striolatus* Kiener, 1845
 ベッコウイモ *C. (P.) fulmen* Reeve, 1843
 * ムラサキアンボイナ *C. (Gastridium) obscurus* G. B. Sowerby, 1833
 サヤガタイモ *C. (Virroconus) fulgetrum* G. B. Sowerby, 1834
 * ジュズカケサヤガタイモ *C. (V.) coronatus* Gmelin, 1791
 マダライモ *C. (V.) ebraeus* Linnaeus, 1758
 * コマダライモ *C. (V.) chaldaeus* (Röding, 1798)
 * ガクフイモ *C. (Harmoniconus) musicus* Hwass in Bruguière, 1792
 ?* ハナワイモ *C. (H.) sponsalis* Hwass in Bruguière, 1792
 ハルシャガイ *Conus (Tesselliconus) tessulatus* Born, 1778
 * タガヤサンミナシ *C. (Cylinder) textile* Linnaeus, 1758
 ロウソクガイ *C. (Lividoconus) quercinus* (Lightfoot, 1786)
 * ナガシマイモ *C. (L.) muriculatus* Sowerby, 1833
 イボシマイモ *C. (L.) lividus* Hwass in Bruguière, 1792
 * オゴクダイモ *C. (Vigiconus) moreleti* Crosse, 1858
 キヌカツギイモ *C. (V.) flavidus* Lamarck, 1810

イモガイ類はタカラガイ類と並んで南方系を示す分布要素の代表的な分類群の一つで、我が国沿岸では黒潮と対馬暖流の影響を受けて多種が分布する中で、北方へ行くほど分布種数が減少することがよく知られている（久保田 2012 参照）。紀伊半島の本調査地点に限定しても南方系の北限種が圧倒的に多く、23 種中の 14 種がこれに当たり、61% も占める。現在進行形の地球温暖化に伴ってこの比率が今後どう変化するか、今後の継続調査が望まれる。このことと関連して、以前に紀伊半島が北限だったが（久保田・小山 2002 a, b）、今回、それが房総半島に北上したのがマダライモ（平澤ほか 2015 参照）だけであった。なお、このリスト中には、ゴマフイモの様に、2017 年 2 月 21 日に“北浜”へ 3 個体目（図 1 の左）が打ち上がるといった極めて稀少種も含まれているので、地道な努力を重ねることが重要である。また、メノウモドキは沖縄が北限と記載されているが、未だに 2 個体目が本調査地点（上記リストの N）から採集されていない。

引用文献

- 平澤康太・久保田 信. 2013. 歌山県白浜町番所崎付近へ打ち上げられた軟体動物腹足綱貝殻追加目録 (2011-2013). 南紀生物, 55: 90-91.
 平澤康太・山守瑠奈・久保田 信. 2015. 方形斑の一行が欠損したマダライモ (軟体動物, イモガイ科). Kuroshio Biosphere, 11: 65-66.
 久保田 信. 2006. 宝の海から, 白浜で出会った生き物たち. 233 pp. 紀伊民報, 田辺市, 和歌山県.
 久保田 信・小山 安生. 2002a: 番所崎, 特に“北浜” (和歌山県白浜町) へ打ち上げられた軟体動物貝類目録 (1). 南紀生物, 44: 69-76.
 久保田 信・小山 安生. 2002b: 番所崎, 特に“北浜” (和歌山県白浜町) へ打ち上げられた軟体動物貝類目録 (2). 南紀生物, 44: 133-139.
 久保田 信. 2012. 長崎県対馬に漂着したタカラガイ類とイモガイ類 (巻貝綱). 長崎県生物学会誌, (70): 6-8.
 Ohgaki, S., Komemoto, K-I. and Funayama, N. 2011: Record of the intertidal malacofauna of cape Bansho, Wakayama, Japan, from 1985 to 2010. Publ. Seto Mar. Biol. Lab.,

Special Pub. Ser., XI, 1-311.

奥谷喬編著. 2017. 日本近海産貝類図鑑 (第二版), 東海大学出版会, 東京.